

指定校番号	30011		学級活動	<input type="radio"/>	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	-----------------------	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中南小学校	校長	中坊 京子	生徒指導主事	高田 博之
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『主体性を育む児童会活動の実現を目指して6+3=9 への連携』**

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「他者理解」	3	「自主性・主体性」	1	「自己理解」	2

**取組のねらい『キーワード ～小中連携～』**

本校の委員会活動の課題は、児童主体の活動になっていないこと、中学校との連携が図れていないことが挙げられる。そこで今年度は、府中緑ヶ丘中学校区小中連携事業の一貫として、9年間を見通して具体的なゴールを明確にし、委員会活動を活性化させることを通して、児童の自主的・実践的な態度を養う。

**取組の具体的内容『キーワード ～委員会活動の見直し(合合わせる)～』**

- ① 委員会の改定  
 中学校入学後の学校生活を円滑にするために、本校の委員会活動と府中緑ヶ丘中学校の委員会活動を合わせた。これまでの「栽培委員会」を「美化委員会」と改名した。また、中学校の風紀委員会の役割を児童会執行部が担うことで、小学校と中学校の委員会活動を揃えた。
- ② 児童会執行部、各委員会委員長の選考方法の改定
  - ・執行部は、これまで各学級から男女1名ずつ計2名の選出であったが、学年選挙で8名を選出することとした。
  - ・各委員会の委員長は、5年生の3学期に各委員会児童による話し合いで選出し、次年度の委員長として活動し、6年生進級時にもその委員会の委員長として継続して所属することとした。
- ③ 組織改編
  - ・執行部は委員会の一つとして活動するが、児童会全体を視野に入れ、総括的活動（各委員会のサポート、代表委員会の調整など）をする
  - ・委員会総会の位置づけ、各委員長の役割を確立する。

**取組の課題・創意工夫『キーワード ～活動の見える化～』**

**課題**

- ・委員会同士の連携が弱く、活動状況に差がある。
- ・5年生への活動内容などの引継ぎが弱く、活動が停滞する。

**創意工夫**

- ・委員会の活動を1年生から5年生までに知ってもらったり、委員会の横のつながりを強化したりするために、各委員会が「委員会ステップアップ計画書」作成し、日々の活動の様子の写真とともに校内3箇所に掲示した。

## 取組の成果（効果）『キーワード ～ 見通し ～』

- ・委員会の改定では、中学校と委員会活動を合わせたことにより、児童は中学校進学後の見通しをもつことができ、進学に対する不安を減少させることができた。
- ・選出方法を改定したことで、執行部役員に立候補する機会が大幅に広がった。学年選挙の形式にしたために、児童の思いや願いを反映できるようになった。委員長については、5年生3学期に次年度の見通しをもち、自覚と責任をもって活動できるようになった。来年度、各委員会で活動が円滑に進むものと期待できる。
- ・組織改編については、現在検討中である。
- ・各委員会のステップアップ計画書を策定することで、各委員会の目標や活動内容が明確になり、見通しをもつことができ、活動に対する目的意識が高まった。
- ・活動の様子を全校児童に知らせたことにより、委員会に対する興味・関心が高まった。また、大掃除週間には、執行部と美化委員会が協力して掃除場所を回り、掃除の仕方を教えたり、評価したりするなど新しい動きが生まれ、活性化につながった。

## 今後の展開『キーワード ～ 「合」から「繋」「動」「推」へ～ 』

委員会活動を通して、中学生のリーダーシップのもと「志」につながる小中合同活動を計画し、実施する。

平成31年度 キーワード「繋」

- ・定期的に中学生と話し合う。（児童会執行部と生徒会執行部）
- ・中学生の活動内容を参考にして小学生の活動内容を検討する。

平成32年度 キーワード「動」

- ・活動の進捗状況、成果と課題について計画的に連携する。
- ・小中の実態や課題を踏まえた取組を計画・実施する。

平成33年度 キーワード「推」

- ・平成32年度の活動を振り返り、発展させる。
- ・これまでの活動の見直しと評価。
- ・今後の構想を練る。



## 他教科との関わり『キーワード ～ そして「広」へ～ 』

委員会活動の活性化や中学生になった時に小学生を巻き込んで活動するような企画力・実践力を発揮するためには、学級活動が基盤となる。各学年の実態に応じて充実した学級活動が実施されると、学年が上がるにつれて自分の所属する学級集団をよりよい集団にしようとする活動が活発になる。そうすることで、視野が広がり学校集団を、地域集団をよりよくしようとする態度を養うことができる。そのような、自主性・主体性が各教科での課題発見、問題解決能力を育むと考える。